

令和7年度 園の自己評価および学校関係者評価

ひしのみこども園では、教職員と保護者のみなさんに、「ひしのみこども園の教育と保育及び運営」について、アンケート調査を行い、それに基づいて、園の自己評価を行いました。また、自己評価の客観性を高めるために、学校関係者評価委員会を設け、部外者評価を実施しました。
この貴重な結果を大事にして、令和8年度に臨みたいと思います。

令和8年3月 ひしのみこども園長 和泉 秀浩

1. 園の保育と教育の目標

「子ども一人ひとりの主体的、創造的活動を促すとともに集団生活をとおして、思いやりの心や社会性を身につかせ、生きる力の基礎を培う」

2. 求める子どもの姿

優しく	賢く	逞しく
<ul style="list-style-type: none"> 感性豊かな子 協同して遊び互いに尊重する子 	<ul style="list-style-type: none"> 創造性豊かな子 知的好奇心に満ちた子 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで運動する子 食事を楽しむことができる子

3. 保育と教育の方針

- 子どもが進んで身体を動かして遊びを楽しむような環境づくりをする。
- 遊びの中で芽生える疑問や知的好奇心、文字や数量に対する関心などの、知的発達を促す場づくりをする。
- 保護者と連携し、日常生活における基本的な生活習慣が身につくように努める。
- 園内外における自然体験や社会体験を通して、豊かな感性や表現力を育てる。
- 野菜の栽培や生き物の飼育を通して、生命の神秘にふれさせ、また自然の恵みに感謝する気持ちをもたせる。
- 意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、給食との関連を図り、楽しさと同時に食事のマナーを身に付けさせる。
- 園の内外における園児の安全と安心の確保のために細心の配慮を心がける。
- 身近なエコ活動を通して、身の回りの自然や生活への関心を深める。

4. 評価

自己評価の基準		関係者評価の基準			
A 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、90以上 B 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70以上 C 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70未満		A 園の自己評価を納得できる B 園の自己評価を大体納得できる C 園の自己評価をあまり納得できない D 園の自己評価を納得できない			
領域	評価の観点	自己評価		関係者評価	
運営の体制	1. 教育・保育の充実	A	全職員が、同じ保育を行うために、園内研修では同じ内容を2回に分けて、パート職員も参加できるようにしたり、研修結果を掲示したりと工夫した。共通理解のもとに園児への共通の対応を行ってきたことにより、園児の落ち着いた姿、遊ぶ様子などから、高評価をいただけたと考える。今後も指導の工夫・改善に努めていきたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> 具体的にどのように共通理解し、いえいかを考え、取り組んだ結果が、現れている。 研修の在り方が工夫されている。
	2. 施設・設備の活用	A	身のなる樹木の活用やホールや絵本の部屋など、保育参観やお便り、園児の持ち帰りの作品等で、施設設備の活用は周知できているととらえている。しかし、一部の保護者に、老朽化した総合遊具撤去に伴い、遊具を増やしてほしいとの願があるようだ。	B	<ul style="list-style-type: none"> 園庭やホール等、有効に活用されている。 新たな遊具ができると嬉しい。 屋外遊具施設については、遊具を増やすにあたって、園庭の広さや使い方、安全面等々、メリットデメリットを慎重に考え、保護者に説明したらよい。

	3. 危機管理・安全管理	A	毎月の様々な避難訓練や、定期的な安全点検及び連絡会での職員の共通理解を進めてきたことで、危機管理意識が高まり、安全教育の充実を図ることができた。	A	・園だより等でも避難訓練について伝えられ、保護者にもその様子が理解でき、良い評価に結びついている。
	4. 信頼・連携	A	安心して相談できるような体制・環境作りに努め、保護者との信頼関係は概ねできていると思う。また、日々の送り迎えの時に担任ができるだけ丁寧に保護者への対応ができるように努めていきたい。	A	・保護者のコメントからも先生方の信頼が高いことがわかる。 ・信頼の上に教育・保育が成り立っていると思う。これからも大事にしてほしい。 ・日常のコミュニケーションの積み重ねが信頼につながっているようだ。
日 々 の 保 育	1. 道徳性の涵養	A	日々の保育の場面で、トラブルが起きたときに、個々の特性に応じた指導を努めており、一定の評価は得ている。しかし、対応が見えにくい側面もある。今後も丁寧な対応に努めていきたい。	A	・保護者には伝わりにくい部分だと思う。生きていくうえで、とても大切なことなので、先生方もこれまでのように意識して、取り組み、保護者への発信を続けていってほしい。
	2. 生活習慣の育成	A	個々の成長に合わせて少しずつ基本的な生活習慣が身につくように見守りながら指導・支援を心がけてきた。今一度、保護者との協力という視点にたって、対応していきたい。	A	・子どもに寄り添ったかかわりを大切にし、気づかせる指導を大切にしていることがわかる。 ・子どもによって成長や家庭の状況が違うので、保護者の協力が必要。その中で、連携して取り組まれている。
	3. 健康・安全指導	A	個々の健康情報や園内での感染症の情報提供、発育測定、健診の結果報告を通し、保護者との情報共有に努めた。また、給食や保便便りの配布により健康・安全面での啓発も努めている。	A	・細やかな情報提供で、高い評価を得られていることがわかる。 ・健康・安全面でしっかりと指導されている。
	4. 遊びを通した指導	A	子どもが自ら様々な遊びを創造していけるように、どんぐりや葉などの自然物、空き箱やトレイなどの廃材的な人工物などを準備し、環境の整備を進めてきた。幼児期に必要な体験ができるよう努めていく。	A	・環境構成に努め、身の回りに様々なものを準備し、手作りのものが子どもたちの遊びを豊かにしていることを感じる。 ・遊びを通して興味・関心を引き出そうと指導されている。
	5. 幼小の接続	A	園児たちがスムーズに小学校ができるようにと「多久市幼保小架け橋期プログラム」に沿って取り組んでいる。情報交換を計画的に行っている。年2回のわくわく交流会は、園児たちが、入学へ期待と安心感をもてていると考えている。	A	・幼から小への連続を充実させることで、教育・保育との連続性が生まれる。連携を更に密にしていってほしい。 ・「遊びが学び」であることを子どもたちの姿を通して、小学校の先生方とも共通した子どもの捉え方ができるとよいと思う。
地 域 と	1. 身近な人々とのかかわり	A	園行事や中・高・大学生との触れ合い、また、地域に出向いての触れ合いを行っているため、5年ぶりにアンケートを取った。今後も園児の育ちにつながる触れ合いを模索していきたい。	A	幼少期から多くの人とのかかわりを生もうと努力されている。 ・いろんな人との関わりを更に継続して取り組んでほしい。
	2. 食育の推進	A	給食便りを通じて食育について、また季節の食材(旬の野菜)の活用など保護者への広報を充実した。しかしながら、個々の成長の違いから食事マナーについて今後も取り組んでいきたい。	A	・美味しいものを、おいしく食べさせたいという方針をもって食育に取り組まれていると思う。 ・食事マナーについては、先生方の対応が保護者の中にはわからない方もいるようなので、発信の仕方を工夫するとよい。
	3. 生命の大切さに気付く環境作り	A	今年度も引き続き、昆虫を中心とした飼育や園庭で見られる昆虫以外の生き物との関わりを日々の遊びで大切にしてきた。また野菜や草花の栽培などの体験を通して、自然とのかかわりを大切にしてきた。	A	・五感を通して、主体的に体験し、友達と一緒に世話をするなど、命の大切さに気付く環境を作られている。 ・自然との関わりを大切に指導されている。

の 連 携	4. 読書の大切さと啓発	A	3歳以上児では、本を借りるようにしたり、読み聞かせをしたりしている。3歳未満児でも保育室にブックスタンドを設置するなど、絵本に園児自らが触れられるようにしている。絵本に親しませる機会を増やすよう努めている。	A	・本に貸し出しや、いつでも読める環境を作られていてよい。 ・幼い頃の読書環境はとても重要だ。親が十分に読み聞かせ等が、できにくくなった分、園の役割は大きい。
	5. 開かれたこども園	A	保育参観や園主催の行事については、年間計画に沿って開催を行い、園の教育活動や子どもたちの様子を十分に参観していただけるようにした。各組の保育計画や各種連絡、給食献立表などはスマホアプリで閲覧できるかたちで遺漏なく送信を行った。園生活や教育活動の周知についても紙媒体や園ホームページへの掲載、Instagramで発信した。	A	・いろいろな形で発信が行われていてよい。先生方の過重負担とならないようにしてほしい。 ・SNS等を使って、大切な情報を届けようと努められている。 ・保護者にとっては、ホームページよりSNSのほうが、身近である。SNSの活用を中心に考えていったらどうか。

5. 関係者委員会のコメント

○園の先生方の子どもたちへの愛情表現が、伝わりよかった。子どもたちの益々の喜びの体験が増えることを期待している。

○園の環境を活用し園児の発達や興味、季節等を配慮して教育・保育を計画的かつ創造的に実践することができていると思う。

○保護者・職員ともに評価が高い。信頼されている子ども園だということがうかがえ、大変すばらしい。また、保護者への理解を深める努力は高く評価できる。評価結果で、「分からない」が少々みられる。より保護者に分かりやすい事例を増やすと保護者の理解も進むと思う。

○子どもを預けることに安心を覚える保護者が多いと思う。園児も生き活きとしていて、この園で生活できる子どもたちは幸せだと感じる。職員は忙しく大変だと思うが、負担軽減も含め、どんどん新しいことを取り入れ工夫し、より良い園づくりを目指してほしい。

○公開保育でも見せてもらったが、園児の安全性を第一に考え、職員の連携を取りながら、できる限りの見通しをもって、臨機応変にフォロー体制をつくられているなど感じた。戸外、園庭遊具の安全性や劣化状況については、巡回点検と目視によりしっかりとされている。落雷の場所等も見せてもらったが、しっかり危機管理にも対応されている。

○保育室内の清潔が保たれていくのはもちろんのこと、子どもの豊かな感性を引き出す環境のため、季節ごとのディスプレイ等にも工夫がされている。

○特別な支援を要する園児については、これからも、多久市や療育施設と連携して進めてもらいたい。また、特性が多岐にわたるので、研修や共有を深めることを更に取り組んでもらいたい。

6. 総合評価と次年度への課題

日々の教育・保育活動も「遊びは学び」という基本理念を具現化すべく、外部講師を招き園内研修等を通して研鑽を積み、子ども一人一人の成長や発達を促すことに努めて参りました。全職員が、同じ教育・保育を行うために、園内研修では同じ内容を2回に分けて、パート職員も参加できるようにしたり、研修成果を掲示したりと工夫し、共通理解にをもちに、できるだけ職員による対応の差がないように園児への対応を行って参りました。

自己評価アンケート結果では、感染症対策の一環のために評価項目から外していた「身近な人との関わり」を復活させ、すべての項目(14項目)がA評価でした。昨年度、関係者評価委員の方からB評価をいただいた「食育の推進」については、課題解決についての取り組みと、保護者代表の評価委員の方の日頃の様子の話から、改善がみられるとの評価委員の見解をいただきA評価をいただきました。

しかしながら、「施設・設備の活用」については、関係者評価委員の方からは、B評価をいただきました。昨年度園児たちに親しまれていた大型遊具を老朽化により撤去したこともあり、評価アンケートに遊具を増やしてほしいという声もあった。次年度以降に向けては、園庭が広くなった分、子どもたちの活動の幅が広がり、安全性も増しました。遊具設置については、園庭の広さや使い方、安全面等々、メリット、デメリットを慎重に考えていきたいと思っております。

一昨年度より関係者評価委員の方から、質問内容変更が望ましいと指摘された、運営体制「4信頼・連携」、日々の教育・保育「1道徳性の涵養」がありました。「4信頼・連携」については昨年度より、「とてもそう思う」が約19%向上し、「1道徳性の涵養」では、「とてもそう思う」が約10%向上しました。これまでのように丁寧に取り組むことはもとより、職員の取り組みが具体的に分るような改善が必要だと感じました。

関係者評価委員の方からは、全般的に保護者から本園の教育・保育活動は十分に信頼されていると評価をいただきましたが、人工知能により社会が大きく変化していく時代となります。新しい時代に対応する資質・能力子どもたちに育む、基盤が乳幼児教育であることを心にとめ、園の改善と充実を今後も目指します。

これからも「やさしく、かしこく、たくましい」ひしのみの子どもの成長を願って、「情報発信」をキーワードに様々な工夫・改善を図り、各種の課題解決と共にひしのみこども園の“教育・保育”の質の向上を図っていきたいと考えます。